

熱海市総合計画審議会・熱海市総合戦略会議 第3回会議結果

日 時：令和8年2月9日（月） 14時～15時35分

場 所：市役所第3庁舎会議室

出席者：<委員> 石井委員（副会長）、井戸委員、小泉委員（会長）、大館委員、佐野委員、田中委員、土屋委員、出口委員、中島委員、西島委員、野中委員、原委員、福島委員、森田委員、山田委員（代理出席：坂上氏）

（欠席） 岩瀬委員、谷委員、福嶋委員

<策定委員> 吉徳副市長、鈴木副市長、三枝市民福祉部長、立見観光建設部長、小坪健康福祉部長、田中公営企業部長、轟田消防長、窪田観光建設部次長、高久危機管理監、高橋会計管理者、相磯学校教育課長、富岡生涯学習課長

<事務局> 小山経営企画部次長・佐藤企画財政課長・後藤企画室長・企画室

配布資料：資料9 後期基本計画（案）審議会委員提出意見

資料10 後期基本計画（案）審議会委員提出意見

議事

1. 開会（経営企画部次長）

2. 会長挨拶

皆様今日もどうぞよろしくお願ひいたします。

本日は第3回の審議会ということで、次第に従いまして進めさせていただきます。

今日は後期基本計画につきまして、前回、5つの施策のうち、3までやりまして今日は4の「子どもの豊かな感性を育み、誰もが生きがいを持てるまち」以降、後期基本計画について部長さんにご説明いただきてご議論いただくと。そのあと人口ビジョン、総合戦略については、前回説明がありましたが、ご意見を頂戴するということでございます。それでは早速でございますが、4（1）、この冊子という68ページですかね、「子ども・子育て支援の推進」ということで、小坪健康福祉部長さんからご説明をお願いしたいと思います。

3. 第五次熱海市総合計画後期基本計画（案）について

- 後期基本計画（案）【4】から【6】までの各施策について、担当の策定委員より説明。
- 健康福祉部長より【4】（1）子ども・子育て支援の推進について説明。

【西島委員】この内容について意見とかそういうことではないんですけども、子ども・子育て支援に関わる者として少しお話しさせていただきたいと思います。まず少子化問題についての状況ですけれども、保育園では、定員割れが出て、それで転園せざるを得ないということが起きています。あとは待機児童の対策として、小規模保育園ができたんですけども、少子化が進

んで令和5年度に閉園となりました。最近では幼稚園の休園なども聞いています。私は保育園とか幼稚園に入っていない子どもを支援する子育て支援センターというものを長く担当していました。私が担当している頃は親子が本当にたくさん遊びに来てくれて、特にイベントですね、クリスマス会とかになるともう50組ぐらい来てくれてとてもにぎやかに過ごせる時代だったなと思っています。地区ごと、泉、伊豆山、多賀、熱海地区への出張保育なんかもやっていました。もうあの頃は皆本当に元気があって活気があって、人との関わりを大事にする時代だったなという気がしています。今はもうスマホが人と関わるツールだったり、あと情報を得る時代になり、直接な人との関わりがなんかちょっと薄れてきているかなっていう感じています。

子育てについてですが、時代の変化とともに大きく変わってきました。昔の価値観でのアドバイスは全く役に立たなかったり、よかれと思ってやったことがありがた迷惑だったり、世代の価値観の違いを痛感することが多々あります。私たちができることは、子どもたちの話や保護者の話に耳を傾けて聞いてあげること。そしてそれを代弁してあげたり、問題解決のためにはどんなことが必要で、それを実践につなげていくにはどうしたらいいかと一緒に考えていくかなと思っています。先ほど保護者の声を聴き、代弁すると申し上げましたが、具体的な例をちょっと挙げさせてください。熱海は出産する病院がないということです。やっぱり遠くに行かなきやいけないことは皆すごい不安だという声を聞きます。小児科も少なくて診察時間も早く終わってしまうそうです。あと若い世代の住むところですね、家賃が高かったり、マンションや一戸建ての購入を考えたときに価格が高くて若い世代の経済力では求めることが難しいと言っていました。保育園でも函南町とか小田原、三島などに引っ越してしまうことが多いです。あとはお父さんにも育休を取って欲しいという願いです。とても難しいことかもしれません、私たちもできたらお父さんたちに育休を取って欲しいということがあります。子どもの幸福感はお母さんの笑顔の長さで決まるという話を聞いたことがあります。お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんの役割、それはお母さんの笑顔を増やすこと、それが子どもへの最大のプレゼント、子どもの最高の財産になるそうです。その言葉を聞いたとき、ちょっと気づいたことがあります、子どもたちがお絵描きするんですけれども、その家族の絵とか友達の絵を書くときに、みんなニコニコマーケの顔を書くんですね。やっぱりその顔を見たときに、子どもたちが求めているのは、物とかではなくてこういう笑顔。みんなの笑顔で心の豊かさなのかなって感じことがあります。もちろん私たちも子どもたちにはたくさんの笑顔のシャワーをかけていきたいと思っています。

移住してきたお母さんからこんな嬉しい話を聞きました。熱海は自然に恵まれていること、そしておいしいお店がたくさんあって、旅行に行かなくても十分楽しめるそうです。あとは熱海の温泉が不妊治療にとても役に立ったという話を聞きました。温泉効果で基礎体温が1度上がって妊娠にもよかったです。少子化問題に温泉が少しでも役に立ったってことを知り、とてもうれしくなりました。

私、子ども子育て会議というものにも出席させていただいております。熱海の子どもたちのために、こんなにいろいろ事業をしてくださっていることを知り、本当にありがたいなと思いました。やってもらえることが当たり前ではないこと、感謝の気持ちを持つことの大切な部分も伝えなければなと思っています。その中で保育料の関係でとても感謝していることがあります。令和7年度より熱海市に在住している0歳児から2歳児のクラスの保育料を無償化していただいたことです。これはすごいことで保護者の方がとても喜んでいます。特に双子を育てている親御

さん、2人分の保育料は負担だと言っていました。あとは外国籍の保護者ですね、うちはネパールの保護者が多いんですけども、そのお父さん、お母さんも何かラッキーとか言ってすごい喜んでくれて、私もうれしいなと思いました。ありがとうございます。

最後に、少子化で子どもが少ないことだけが心配されているんですけども、今回このような会議に出席させていただくことで少子化のメリットもあるということに気づかされることが多々ありました。これから時代は子ども一人一人が大切にされる時代なのではないかなと思います。古い価値観にとらわれず、新しい価値観の中で自由に伸び伸びと自分らしく生きていく世の中であって欲しいと思います。保育園として、育児と仕事に頑張っているお父さん、お母さんのために何ができるのか、また保育園や幼稚園に入ってない子育て支援センターの利用者をどう支援していくべきかを考えながら、熱海のすべての子どもたちの育ちを応援していきたいと思います。子供たちの未来が幸せであることを切に願いたいです。

○学校教育課長より 【4】(2) 热海らしい特色ある教育の推進について説明。

【小泉会長】この4(2)につきましては、中島委員からも事前にご意見をいただいておりまして、皆様のお手元の方にあります。せっかくですのでお話をいただければと思います。

【中島委員】大変おこがましいようですが、書かせていただいた通り、まず熱海市というのは基幹産業が観光ということは皆さんご承知の通りだというふうに思います。また前回からもずっと話が出ておるんですけども、人口減少と少子高齢化というのも現実問題としてあります。先ほど西島委員の方でもありましたけれども、外国人労働者の教育環境というのに関しても、やはり先生の問題があったり、いろいろ厳しい環境があろうかと思いますので、そういうことをすべて現実問題として受け入れた上で計画というのが必要ではないかというふうに感じております。

【坂上氏】代理で出席させていただきました坂上と申します。お話をあったように、今、人口減少、少子高齢化の波というのがあると思います。学校の方では、静岡県内、西部地域に比べるとそうでもないかもしれませんけど、やはり外国籍のお子さんが増えてきているっていうのは事実でございます。そこに対して、学校の方で工夫して対応しているというのは実際にあるところです。なので、提案にあったような形できめ細やかなことを中心にやっていくところはいいというふうに思っております。

【出口委員】PTAの会長をやらせていただいている。こちらの案の内容で大丈夫かと思います。不登校児童生徒が年々増えているということで、中学校を卒業した後、高校へ進学するにあたり自分に合ったところを選んでいくと思うんですけど、入学した後、どんな感じになっているのかなというのは気になりました。あと、コロナ禍以降、子ども達は我慢するが多くて、大人から指示があったことは嫌だけどやるという感じが結構あるというふうに聞いたことがありますので、子どもの声を聞くような場所、子どもだけ集めて会議を開いて、そのときに思ったことを

ざっくばらんに話せる場所があると、子どもの意見を聞き入れていろんな案が出るんじゃないかなって思いました。

【井戸委員】男女共同参画の立場ではなくて一保護者として思ったんですけど、今、子どもが2人いて1人が高校3年生、大学受験中で、もう1人が中学2年生なんですが、もう明らかにその4学年の間にものすごい学力の下がり方をしていて、もちろんうちの子だというはあるんですけど。毎回試験の度に個票というのをいただいて、50点満点で0点から19点が何人、その上が20点から何十点が何人っていうグラフが全教科出てくるんですが、一番下の0点から何点っていうところが断トツに増えていて、上の子どもの時とグラフが真逆になっていて、大体真ん中が伸びていると思うんですが明らかに全教科一番下が多い状態で、うちの子はそれに乗ってしまっているんですけど、私が考えるに1つはネットの授業と家でパッと見てしまう授業が増えて、明らかに書いてないんです。課題も何も書くことを全然しませんので、かなり大きな舵取りをしないと熱海の子どもの学力が相当下がっていると思っているので、ちょっとこれは私の希望で、うちはもう間に合わないかもしれないんですけど、上の子どもの時ときでさえ三島の公立高校に行ったときに、この学年は大分もう下がってきたというふうに言われていたので、今後どんどんどんどん下がってしまうのではないかという懸念を抱いておりますので、何か大きな舵取りをお願いします。

【小泉会長】私も静岡産業大学の教員でもあるので、熱海からも学生が来ていまして、活発で前向きな学生が結構いるので、やっぱり元気なのかなという気はしておりますが、私も実は自分の授業のケースですが、授業では生徒にノートを紙で書かせるようにしていまして他の授業はパソコンを使った授業が多いものですから、ただ、こればっかりじゃいけないということで毎回ノートを配って全部回収してノートに点数をつけて返しています。全授業で100人でも200人でもやるんですが意外と書ける。授業中に指してもあんまりまともな答えが返ってこない場合もあるんですが、ノートには書けているというのが意外とあって、おっしゃる通りノートをとるというのは自分で教科書を作るんだよってことで、自分用のテキストを作って、そこからテストに出るからねということでやっていますけど、本当に書くのは大事かなっていう点がありました。あとは、今の大学教育もそうですが、他の子の意見は否定しないで、彼の意見はこうだけど私は違う考えですということを言うようにしましょうねってことは多分義務教育や高校でも今やっているんですが、大学の方でも以前からありますがそれは相当強くやっています。ここから先は半分雑談になるんですが、チームみらいという政党が今回伸びたんですが、若い人目線というかあの政党は他の政党の批判をしない。特定の政党のPRではないんですが、若い人に受けているんですよね。ゼミなんかでやるときに、自分の意見は言いましょう、他の人の意見とは違うってことは言ってもいいけど、おかしいって言わないようにしましょうっていうのが結構ありますて、今の若者からすると他を批判するんじゃなくて、うちは消費税じゃなくて社会保障ですかこれは雑談的な感想になりますが、結構今大学とか強化しているところがあります。

○生涯学習課長より 【4】(3)文化の振興について説明。

【土屋委員】 内容は概ね良いかと思います。無形文化財の会員さんなんんですけど、鹿島踊りとかお祭りが近づくと練習風景を取材させていただくんんですけど、太鼓とか笛の音が近隣住民からうるさいとか言われてなかなか練習しにくいというような声もちょっと聞いたので、こがし祭りも太鼓の練習があるので近隣住民の理解が深まってもらえるといいかなと思いました。

【小泉会長】 保存活用の上では本当に重要ですし、もしくは活用という点では、むしろそういう音がもっと聞こえたほうがいい場所もあるのかもしれない、既存の施設の中でそういう活用を図ることができると良いかもしれない。

実は県の文化政策課長を昔やったことがあります、史跡の江戸城石垣石丁場跡は知っている人には有名だと思いますが、文化庁との関係でこういう保存活用の整備計画を作つて整備していくこうかということをやっておられるということですが、目標としては令和12年までにこういった計画ができる、それを受け何らかの整備をしていくということだと思いますので、それはそれで進めていただくといいと思います。この計画に書く必要は全くないんですが参考までに申しますと、いわゆる伊豆石というものは幾つかジャンルがあって、江戸時代に江戸城の石垣になりましたとか温泉の浴槽に使いましたとか、あとは実は大蔵省、昔の銀座の中心街ですね、日本で最初の都市計画道路でございまして、実は大蔵省が施工した最初の都市計画道路事業なんですが、レンガ内といいますか、お化粧版はあれなんですけど伊豆石なんですね。結構全国各地でこの伊豆石は活用されています。こういう史跡の整備ももちろんそうなんですが、そこから出た石がどうなったのかということで、江戸時代に限らず、実は明治以降の近代日本の都市の形成に非常に大きな寄与をしていて、東京科学大学の先生なんかともやり取りしたことがあります、ソフト的な価値、それが実は銀座とか、こういうところのここに使われているというちょっとソフト面の情報をホームページでも何でもいいので出した方がよい。その手の専門家はデータも情報もみんな持っているので、市が苦労して調査しなくても持っている方がいますので、そういった人から情報提供を受けてちょっと載せるだけでも、もう実はこの違う観点での史跡の意味合いが出てくるじゃないかと思います。あと江戸時代だけじゃなくて近代建築に結構着目している研究者がおります。

【原委員】 私、東田原町内会の会長をやっているんですが、うちの町内に旧日向家熱海別邸と東山荘という両方とも文化財的には重要な施設があるんですね。地域に伝わる文化資源は次につなげるべきということですが、例えばうちの町内の会員たち知らないんですね。というのは、地域の方々はその隣近所の人たちもどんなものがそこにあるのかっていうのはわからないんですね。できれば市民の方々にそういうものを開放して、ある程度知つていただく努力も必要ではないのかなと思いました。それがひいては、他の方々へのPRにも繋がってくるのかなということで、ぜひとも熱海にはいろいろないいところがあると思うんです。それを埋もれさせてはしょうがないので、それが外に伝わるような、そんな1つのところからやっていけばいかがなと思いました。

【小泉会長】確かにボランティアガイドの方とかいろいろ関わっていて、地域によってはそういった資源に关心がある市民の方や、もしくは近隣の市町村の人なんかがボランティアで月1回整備に来たりとか、いろんな関わりもあると思います。地域の方に一番愛していただけたとやっぱり助かると思います。

○生涯学習課長より 【4】(4) 生涯学習の充実について説明。

【福島委員】ちょっとここで気になったのは隣の伊東市で新しい図書館の建設がまた市長選だとかいろいろ政治問題化したことがあって、今この計画において熱海市が新図書館をつくるという構想をここに位置づけるかということについて果たしてどうなのかって若干の疑問点があるものですから、もう構想自体を策定するということなのか、図書館をつくるべきかどうかっていうと市民の議論を深めるとか、そんなような形の表現がいいかなと思ったんですが。事業の中には新図書館構想策定とありますが、私はここまで踏み込んでいいかどうかってちょっと心配です。

【小泉会長】これは新図書館を作るということがもう方針として決まっていて、その方針に基づいて構想を作るっていうそういう理解でよろしいんですかね。

【生涯学習課長】以前構想の方があったんですけども、そちらの構想は今、一旦棚上げになっているような状況でございます。今委員がおっしゃられたようなしっかりと計画を作る、その前段階として、やはり教育委員会といたましても、図書館計画を策定する前の段階として構想をしっかりと作っておく必要があるというような認識の中でこのような書きぶりを出させていただいております。

【小泉会長】この新図書館構想というのは、図書館が新しいっていうだけじゃなくて、構想自体が元々あって、その構想をもう1回練り直しましょうという意味の新ということだそうですので、構想といつてもそんなにがっちりしたものじゃなくて方向性とかそこら辺の話ですかね。

○健康福祉部長より 【4】(5) スポーツの推進について説明。

【健康福祉部長】76ページにありますスポーツの推進についてあります。

こちらの中ではスポーツ振興計画の中で、市民1年間のスポーツの状況を目標値として、週1回以上スポーツをしている人というところ50%を目標としてございましたが、令和6年度にこの値をわずかながら達成したというところがございます。こちらにつきましては引き続き、全体の市民アンケートの中で定点調査をしておりますので、指標の方にも、再度目標値として設定をしてございます。それからスポーツの形が今変わってきております。ニュースポーツと言われるスポーツ形態、それから昨今ではeスポーツ、ゲームですね。こういったことも各ライフステージに合わせて機会を提供する活動をしていくというふうに考えております。それから現在、熱海市出身、在住のアスリートの活躍が非常に目覚ましいといいましょうか。直近でいきますと、大相撲の熱海富士、ゴルフであるとか陸上の世界、それからチアリーディングは世界レベルとい

うところで活躍しているアスリートがいるというところで、市民が見るというところと、その活躍に、喚起といいますか触発されて、子どもたちのスポーツ活動が活発化しているというところで、先日も大相撲のパブリックビューイングの設定をしたところでございますが、それぞれの機会をとらえて、多種多様なスポーツの推進、振興に努めて参りたいというふうに考えております。私から以上です。

【福島委員】さもないことですが、77ページの指標の真ん中ですね、「する・みる・ささえ」いずれかの形でスポーツに親しんでいる市民の割合 90.2%。なぜコンマ 2%にする必要があるかなとちょっと気になって。ほかのところは大体 90%とか 70%とか割と直切りした数字で、目指す値が 90.2%っていう方はいいのかどうか少し疑問です。

【健康福祉部長】こだわりはないと思いますが、あらかじめ数値化されているものにコンマの数字が出てきたっていうだけだと思いますので、90%ですと目標値自体 100%でもいいかなというふうに思っています。一旦持ち帰らせていただきたいと思います。

【小泉会長】ただですね、実は数値によってはコンマ以下でしか伸びていかないものもあるんですよ。ですから 5 年間でどれぐらいできるのかなっていうところもありますので、必ずしもコンマが駄目って言っているわけじゃなくて、福島委員が言っていたのはこの意味合いがあればいいんだけど、コンマ単位まで出す必要があるんですかねっていうことだと思いますのでそこはもう 1 回よく検討いただければと思います。

○消防長より 【5】(1)消防・救急体制の強化について説明。

【消防長】後期基本計画案の 80 ページをお願いいたします。

【小泉会長】熱海は本当にホテルがあって消防もまたほかのところと違う。ホテル旅館さんへの消防法の指導も大変かと思います。これもアイデアレベルでここに書く話じゃないんですが、今山林火災が非常に増えていますけども、私も聞いてみると多分ハイカーの方の影響もあると聞いております。そういう意味では、通常の消防の世界の予防ではとても対応ができないので、ハイキングコースに当然看板もあるんですが、どちらかというと観光なのか自然保護なのかいろいろ難しいところあるんですが、本当に注意喚起も必要かなと思っているところでございます。

○危機管理監より 【5】(2)防災体制と地域防災力の向上について説明。

【危機管理監】82 ページの防災体制と地域防災力の向上について説明します。

まず目指す姿でございますが、地域防災力の向上は、個々の意識、地域等の協力など多くの連携が不可欠と考えますので、前期と同様に、防災・減災に対し、自助・共助・公助が一体となった取組が行われているといたしました。

現状と課題については、2011 年 3 月に発生した東日本大震災、また一昨年の元日に発生した能登半島地震など強い揺れと津波により大きな災害が発生をいたしました。また、地震以外にも

近年では異常気象による風水害や土砂災害などの自然災害が全国各地で発生している状況です。熱海市では海や山など自然豊かではございますが、一方では様々な自然災害のリスクがありますので、行政による対策だけにとどまらず、市民一人一人の自助による取り組み、市・関係機関・市民が一体となった災害対策を推進することが必要となります。

そこで取り組む事業としましては、防災ガイドブックの活用、わたしの避難計画の作成などによる防災意識の向上のための啓発活動。防災訓練や地域防災連絡会議の実施による自助・共助の育成。自主防災会の資機材整備などについての支援。あと広域での防災の検討。メルマガやLINEなど複数の情報伝達手段の確保と利用に関する市民への啓発などを進めます。

また指標と目標値につきましては、防災に関する講演会や出前講座の開催数を増やしまして、多くの方に防災意識を持っていただく。あとは地域防災訓練の参加数を増やす。食料品など3日分以上備蓄している市民の割合を増やすなどを目標といたしました。私からは以上です。

【小泉会長】皆さんも地域や業界やいろいろな場面で防災に関わられると思います。ここに書いてあること以外にも、前の方で当然水道管等の耐震化もありますし、海岸保全施設とか修景も兼ねてやっています。また道路も含めていろんなところにも防災は関係していると思います。

【佐野委員】計画自体のことじゃないんですけども、現状と課題の中で、近年では異常気象による風水害がとありますけども、今は異常気象という言葉はあまり使わなくて、自分達の業界の中でも気候変動というのに置き換えております。異常気象はもうなくなつてこれが当たり前になつていて、このことで気候変動の方がいいのかなと思います。

○危機管理監より 【5】(3)安全安心な暮らしの充実について説明。

【小泉会長】これも検討いただければと思いますが、85ページの行政の取組のところで、「多様化する犯罪に備え市民などの防犯意識の高揚を図る」ということでございまして、市民などいいんですが、最近企業が非常に狙われています、特に詐欺の関係とか非常に問題になっていますが、中小企業の経営者の名前を語って会社のメンバーのところにLINEグループを作るから入りなさいと。そのLINEで社長からここへお金振り込みなさいという指示が出てきていますで、全国的に被害が中小企業さんとかいろいろあって、実はうちの大学もそのLINEがありました。何を言いたいかというと、この防犯意識の関係で、市民向けもそうですが、企業様向けの事例なんかも多発しておりますので、何か経済界とか商工会議所さんと連携する中で情報提供をしていただいて、何かの会合のときに一言流していただくといいんじゃないかなと思います。

○経営企画部長より 【6】持続可能な行財政運営について説明。

【福島委員】市の行財政運営は非常に重要な項目であるかなと思うんですが、指標と目標値の中で計画の進捗率、オンライン化等とありますが、健全な財政運営の維持というのが取組の中にはあって、会長が一番詳しいところですが、各市町村の健全化指数とか、いろいろ財政的な運営状況を測る指標というのが1つあるかなと思うんですが、熱海市が税収に対してどれだけの支出、

もしくは公債費の負担割合の現状があって、目指す値をこれぐらいに抑えたいって話なのか、むしろ改善していくというか、それらの財政的な指標を入れたらどうかなと思いました。

【小泉会長】これはご意見ということでまた検討いただけますか。中期財政計画とかそちらは市の方ではあるんでしょうか。公表しているかどうかは別として市として作ってもののはありますか。

【企画財政課長】財政計画という形のものではないんですが、財政見通しというような2、3年程度の見通しでは作ってはいます。

【小泉会長】中長期的なものがあればその数値を使ってもよいと思いますが、若しくは標準財政規模の関係とか、そこまでするとちょっとマニアックになる感じがしますが。ここに書くのがいいのかどうかご検討いただければと思います。

実は長泉町の行財政沿革会議の会長とか、あと伊豆の国市の行財政改革審議会の会長をやっていましていろいろ見ていますが、熱海市の場合、主な事業の⑩で遊休地の利活用の推進とあって、これはこれでいいんですが、よく最近は遊休地だけでなくて低未利用地ですね、遊休地だから未利用地に変えて、低利用地と未利用地をあわせて低未利用地とか、もっと広い意味では、土地だけに限らず市の施設ということで、例えば長泉町なんかも結構それで今土地を売却していて、バス停に使っていたんだけども利用者いないからバス停辞めちゃっていいんじゃないかということでその土地を民間に売却したりとかですね、いろいろあの手この手で処分しています。利用はしているんだけど、ほとんど利用がないとか少ないので、もうこの際処分しようとか、それで遊休に限らず、他に低利用地とか、遊休施設とかはもっと広くてもいいかなって思ったところはあります。

【小泉会長】他にいかがでしょうか。一通りこうやって前回から皆様の方で、後期基本計画の関係でご意見をいただきました。皆さんそれぞれご活躍の方なので、ここに書いてあること自体はおっしゃる通りなんだけれど、この書いてあることを進める場合にはもっとこういう方法とか、こういうやり方とか、こういうふうにやつたらどうだってなんかお知恵がもしあれば出してくださいだとあります。

今日の話でもでていきましたが住宅の関係が熱海というか伊豆の場合、土地が限られていて特に観光利用に図られていて土地が高いということがあります、なかなか住居系の課題があると思いますが、静岡県内の市町村を見まして、この市町村のこの地区でなぜ人口が増えたかというと住宅の宅地分譲があったか、もしくはそういうアパートとかが原因。要は住まいが供給されているところで起こっておりまして、住宅地の供給を主に民間がやっていただけていますが、公営住宅をやるには限界がありますから、そこら辺をどうやって図っていくかということが重要なことかなと思った次第です。例えば小山町なんかはもう民間に頼んだら大変なので、小山町の場合は公営住宅でやっています。民間の活動があまり活発でないところについては公営住宅でやっているんですが、そこで成功しているところは基本的には3LDK、要は子育てに使える公営住宅ということで国土交通省も子育て用の公営住宅については規制緩和しています。小山町で

も家賃が大体 6 万円から 7 万円ことでございますので、低所得者というよりも子育てのための住宅ということです。

後期基本計画全体の中の関連で田中委員から、基本構想の関係で人口減少の抑制を目指していきますというところ、修正案として、人口減少の緩和というのがいいんじゃないかというというご意見をいただいております。そういう意味でよろしいですか。

【田中委員】表現の部分についてです。

【小泉会長】というご意見もありましたので、またちょっとご検討いただければと思います。一般的に、例えば人口減少については緩和策と適応策という 2 つがあって、いかに人口減少を和らげるかということと、検証を前提に適用をどうするかという 2 つがあるというふうに考えられます。

4. 第三期熱海市まちひとしごと創生人口ビジョン（案）について

【小泉会長】前回ご説明いただきました人口ビジョンと戦略についてのご意見ということでお願いしたところ、田中委員の方からご意見をいただいて、皆さんのお手元に配られていると思いますけど、田中委員さんの方から簡単にご説明いただければと思います。

【田中委員】事務局の皆様、案の作成について本当に疲れ様でございます。ちょっと意見を申し上げるのは申し訳ないなと思いながら書かせていただいたところがあるんですけども、ページ数を振っていただいているので、まず 5 ページですが、1 つ目は、「関係人口との関わり」が（2）でありますけれども、内容を見ますと少し補足したほうがいいのかなというふうに思いまして、修正後のところにありますように「関係人口の創出拡大による地域経済社会の維持」としたらいかがかなというのが 1 点、6 ページに人口の現状分析のところなんですが、ここを読んでいまして、老人人口のところ一番下の行のところなんですが、約 2.8 倍というのは、ここは強調する意味で 2.8 倍と書いたのかなと思いましたが、他が%でしたので合わせたらどうかというのが意見でございます。これは先ほど申し上げましたように表現の話ですから、こういう意見もあったというふうに参考に申し上げさせていただきます。

そして飛びますが 10、11 ページになりますて、母の年代のことを書いていただいているところがあります。そこと、戻って 7 ページに人口ピラミッドの 20 年ごとの推移が書いてありますて、2020 年ですね、25 歳から 34 歳の方は 20 年前だと 5 歳から 14 歳のところに位置するんですが、その数の推移を見ますと、当然ながら減っているんですけども、これはかなりこの年代の方が大学卒業ぐらいになって流出していくというようなところを表しているのかなというふうに思いました。

一方で社会増減を見てみると、これ 14~18 ページになるんですが、これはちょっと時系列が少し違うかなというふうにしているんですけども、転入は 331 件、転出は 339 件とほぼ同数になっているので、出ていった人がどうなってしまったのかなっていうのをちょっと感想として言わせていただいているところです。先ほどの事務局の方に伺いましたら、転入の方が観光

業への従事として入ってこられる方が相当数いらっしゃるというようなお話を聞いておりまして、そういった方々がなかなか出産というところにつながらないのかなというふうな感想を持った次第です。

5. 第三期熱海市まちひとしごと創生総合戦略（案）について

【小泉会長】この戦略の方は、前回一通りご説明はいただいておりますけれども、この場でご意見があればいただきたいと思います。第三期熱海市まち・ひと・しごと創生総合戦略、この4ページから前回ご説明があったんですが、変化し続ける温泉観光地づくりからそれぞれ戦略がありまして、後期基本計画に載っているのを抽出して組み立てているということで、そういう意味ではダブっているんですが、例えばこの基本目標1 変化し続ける温泉観光地づくりの関係で何かご意見ありましたらお願いします。

【森田委員】私は商業の立場なので、基本計画の1に変化し続ける温泉観光地を目指すというのを1丁目1番地に入れていただいていることは大変ありがたいんですけども、先ほどからお話をるように、やはりこれだけ少子高齢化が進んで、人口減少が進んでいるわけでございます。そう考えますとやはり市役所の仕事っていうのは、住民福祉の向上が第一でございますのでやっぱり安心して人が住めて、そして子育てができる環境を作っていただくことが変化し続ける温泉観光地を目指すというよりも、当然1丁目1番地だと思うので、商工会議所の会頭が言うのは変な話でございますけれども、私はこの目標の順番変えていただいても一向に構わないと思います。つまり4とか5が最初に来てもいいと思います。

【小泉会長】まずはそういう形で、やっぱり地域の生活があって、暮らしがあって、人が住んで、そこでまた若い世代が結婚して、子育てができる環境をつくることが、やはり市としても重要なことではないかというご意見でした。やっぱり熱海というと観光ということで計画としてはよくあるパターンだと思いますが、またそこはご検討いただきたいと思います。

【佐野委員】私が住んでいる静岡市も減少がすごく激しくて、人はよりよい環境求めて出ていき、よりよい環境を求めて入ってくる。こここのバランスが悪いということで、なぜ出ていくんだと。静岡市は気候もいいし、食べ物もあるし、風光明媚なところもあるという、熱海も同じよう住むにはいいところだと思うんですけど、じゃあ何の環境が悪くて出ていくんだと、戻ってこないんだということを、やっぱりそこが一番主だと思うんです。その基本に戻ったほうがいいかなと思います。

【小泉会長】まさにこのまち・ひと・しごと創生総合戦略で、地域があって、人がいて、仕事があって、そこで暮らすと。

ちょっとこの戦略とはあれですが、ちょうど人の移動の話が出ましたので、私の認識では実は静岡県内の各市町村、どこに行っても人口が流出、特に若い女性なんですが、特にこの18歳を過ぎて外へ出る、住民票が残っていると統計とちょっとずれたりすることがあります、これは

結構全国的な傾向であるんですけど、出るのはいいんです。出た人が地元に戻ってくるか、これが市町村によって一定の差がまずございます。もっと差が出るのは、結婚するときに出る、出ないというのがありますと、それが子育て環境だとか、やっぱり戻ってくるのは比較的で働く場があるとか、熱海であれば沼津や小田原に行けるし、仕事もあるからこの辺で働けばいいかなって戻ってくるんですが、今度は結婚するときに住むところをどこにするって言ったときに、実はさっきの話になりますが 3LDK のアパートがないということですね。最初は 2LDK でいいんですが、子育てしようと思って 3LDK がどこにあるかなって探したらないということで実は結婚で動く。今度は子供がでて、どこで子どもを育てるかでも動く。市町村とか地域によって差が出るのは、どちらかというと東京へ出ちゃうということよりも、戻ってきた後の結婚、子育ての段階であります。そういう環境を考えるという点でいきますと 4 番というのまさに若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるということであり、5 番のそういった地域を、暮らしを成り立つようにすることかなと思います。

もしまだお気づきの点があったらですね、ただ次回は相当まとまった形になって参りますので、早めに落とし込んでいく必要がありますので市の方にお願いします。

○経営企画部次長より次回開催案内。

6. 閉会